

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し生きる力」「社会で求められる即戦力」を育成し、地域から信頼される学校

総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現

⇒○生徒一人ひとりのニーズに応じた、きめ細かい丁寧な指導を実践

○地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育の実践

(1) 自己を高める力・・・確かな学力を育み ねばり強さと未来に希望を持つ志の育成

(2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り 周囲と協力し合う力の育成

(3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力の育成

## 2 中期的目標

## 1 学習活動の充実

(1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。

(2) エンパワメントスクール（総合学科）として、選択科目およびエンパワメントタイムの学習内容のさらなる充実と、新学習指導要領における教育活動の充実を図る。

\* 学校教育自己診断における生徒の授業満足度：

平成29年度 49.5% → 平成30年度 60.2% → 令和元年度 59.3%

→ 令和2年度 60%以上 → 令和3年度 63%以上 → 令和4年度 63%以上

## 2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

(1) 生徒一人ひとりを大切にする生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。

\* 中途退学率：平成29年度 8.8% → 平成30年度 6.1% → 令和元年度 6.2%

→ 令和2年度 5%以下 → 令和3年度 5%以下 → 令和4年度 5%以下

(2) 生徒が安心して学校生活が送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。

(3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。

(4) スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、随時、ケース会議及び拡大教育相談委員会を開くなど、積極的計画的に生徒支援や進路支援をしていく。

\* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価：

平成29年度 58.2% → 平成30年度 63.2% → 令和元年度 64.8%

→ 令和2年度 65%以上 → 令和3年度 67%以上 → 令和4年度 67%以上

(5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。

(6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努める。

(7) 外国にルーツを持つ生徒が多数在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

\* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価：

平成29年度 43.6% → 平成30年度 58.4% → 令和元年度 68.8%

→ 令和2年度 70%以上 → 令和3年度 72%以上 → 令和4年度 75%以上

## 3 キャリア教育・進路指導の充実

(1) 自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践し、「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さ」を理解し、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを積極的に進める。

(2) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることでつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としてキャリア教育を中心とした教育活動をすすめて、社会で活躍する意欲や態度を育成する。

\* 進路決定率：平成29年度 81.6% → 平成30年度 83.2% → 令和元年度 82.9%

→ 令和2年度 85%以上 → 令和3年度 85%以上 → 令和4年度 85%以上

\* 学校教育自己診断の生徒の将来の進路や生き方の項目の肯定的評価：

平成29年度 70.6% → 平成30年度 76.3% → 令和元年度 75.7%

→ 令和2年度 78%以上 → 令和3年度 80%以上 → 令和4年度 80%以上

## 4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

(1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。

\* 学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度：

平成29年度 58.1% → 平成30年度 63.1% → 令和元年度 65.4%

→ 令和2年度 67%以上 → 令和3年度 70%以上 → 令和4年度 70%以上

\* 学校教育自己診断における卒業時の生徒のエンパワメントスクール満足度：

令和元年度 78.6% → 令和2年度 80%以上 → 令和3年度 80%以上 → 令和4年度 80%以上

(2) デュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月 実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備	(1) ア 授業中の「五大規律」を徹底指導し、生徒が集中し落ち着いて取り組める授業環境を作る。 イ 習熟度別授業を中心に授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。	(1) ア 授業中における懲戒生徒数 (R1年度11人) イ 生徒学校教育自己診断における授業満足度肯定的評価60%以上 (R1年59.3%)	
	(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上	(2) ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型授業を充実させる。 イ 授業公開週間を設定し、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究を行ったり、指導内容に議論する場の設定をする。 ウ ICT活用などユニバーサルデザインの視点からも授業方法・指導方法について工夫改善を行う。	(2) アイウ ・ 生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価85%以上の継続 (R1年度87.6%) ・ 生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価80%以上 (R1年度79.0%) ・ 教職員学校教育自己診断「指導方法、指導内容の検討や工夫改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ (R1年度61.3%)	
	(3) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実	(3) ア 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習のスムーズな実習を遂行する。  イ エンパワメントタイムの教育内容を充実させる。	(3) ア インターンシップ出席率の維持 (R1年度99%) ア デュアル実習出席率の維持 (R1年度94%)  イ 学校教育自己診断における卒業時の生徒のエンパワメントスクール満足度 (R1年度78.6%)	
2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり	(1) 一人ひとりの生徒をしっかりと把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実	(1) ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識を醸成する。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図る。 ウ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校訪問を実施する。 エ 子ども家庭センターなど外部機関との連携を進め生徒指導を充実させる。	(1) アイウエ ・ 懲戒生徒人数の減少 (R1年度89人) ・ 長期欠席者数の減少 (R1年度75人) ・ 中途退学者率5%以下 (R1年度6.2%) ・ 欠席延人数の減少 (R1年度7347) ・ 遅刻延人数の減少 (R1年度6012)	
	(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり	(2) ア 生徒の状況把握に努めるとともに、要配慮生徒や課題を抱える生徒への教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携を強化し、ケース会議を開くなど、生徒支援を充実させる。  イ 学校行事を見直し、工夫、改善を行い、内容の充実を図るとともに、部活動や生徒会の活動を活性化させる。	(2) ア 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価のアップ (R1年度64.8%) ア 教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価90%以上継続 (R1年度90.2%) イ 教職員学校教育自己診断「学校行事の工夫・改善」の肯定的評価75%以上継続 (R1年度75.4%) イ 部活動加入率30%以上 (R1年度30%)	
	(3) 人権教育の推進	(3) ア 生徒対象の人権学習を系統的、計画的に実施する。  イ 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導、障がい理解等をテーマとした教職員研修を実施する。	(3) ア 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価70%以上 (R1年度68.8%) イ 教職員研修年間4回以上 (R1年度3回)	

		ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。	ウ 生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会」肯定的評価50%以上 (R1年度 48.1%)
3 キャリア教育・進路指導の充実	(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み	(1) ア キャリア教育の充実のために、職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。	(1) ア 進路未定率 15%以下 (R1年度 17.8%)
	(2) 進路指導の取組み	(2) ア 進路決定及び定着のための取組みを継続する。	(2) ア 学校斡旋就職内定率 85%以上継続 (R1年度 86.1%) ア 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価のアップ (R1年度 75.7%)
	(3) 地域等との連携強化	(3) ア デュアルシステムでの連携企業・施設等の地域交流を促進する。 イ 地域の外部機関(東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等)や小・中・大との連携を強化する。	(3) ア デュアルシステム意見交換会の開催 (R1年度 1回) イ 教員による地域の外部機関のイベント、会合への参加回数 (R1年度 5回)
	(4) 働き方改革	(4) ア 働き方改革を常に教職員に意識をさせ、仕事の効率化を図る。 イ 時間外勤務の多い人の状況把握や声掛けをし、時間外勤務の平均時間の減少を図る。	(4) アイ ・ 時間外勤務の年間平均時間の減少 (R1年度 420時間5分) ・ 月80時間超過者の延べ人数の減少 (R1年度 45人)
4 エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信	(1) 教育活動の充実	(1) ア エンパワメントスクールの教育活動を充実させる。  イ 地域とのつながりをさらに発展させ、教育活動における地域とのかかわりを深める。	(1) ア 生徒学校教育自己診断における学校生活満足度 67%以上 (R1年度 65.4%) ア 生徒学校教育自己診断における卒業時のエンパワメントスクール満足度 80%以上 (R1年度 78.6%)  イ 生徒学校教育自己診断における「保護者や地域の人とかわる機会がある」肯定的評価 50%以上 (R1年度 47.1%)
	(2) 積極的な情報発信	(2) ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。  イ 本校の活動状況を、校内モニターやホームページ (HP) を活用して校外に発信する。  ウ PTA・同窓会との連携を充実するとともに、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛け、活性化させる。	(2) ア 中学校訪問件数 200件維持 (R1年度 219校) ア 学校説明会参加者総数 700人以上 (R1年度 773人)  イ 学期ごとに校内モニターの内容更新 イ HPのブログ更新回数 80回以上継続 (R1年度 89回)  ウ 保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」肯定的評価 50%以上 (R1年度 45.9%)